

### 第3回 福祉避難所運営調整会議内容要旨

日 時；平成28年（2016年）4月25日（水） 午後2時から4時まで

場 所；総合福祉会館 集会室

出席施設；総合福祉会館

障害者支援交流センター（あいほうふ吹田）

内本町地域保健福祉センター

内本町デイサービスセンター

亥の子谷地域保健福祉センター

亥の子谷デイサービスセンター

藤白台デイサービスセンター

千里山西デイサービスセンター

南山田デイサービスセンター

特別養護老人ホームいのこの里

介護老人福祉施設吹田竜ヶ池ホーム

特別養護老人ホームみらい

特別養護老人ホームあす～る吹田

介護老人福祉施設ちくりんの里

特別養護老人ホーム青藍荘

吹田特別養護老人ホーム高寿園

地域密着型特別養護老人ホーム憩～江坂～

特別養護老人ホームスローライフ千里

特別養護老人ホームサラージュ南吹田

地域密着型特別養護老人ホームメヌホット千里丘

介護老人保健施設徳洲苑

介護老人保健施設つくも

介護老人保健施設千里

地域密着型特別養護老人ホーム縁

（以上24施設、指定日順）

事務局；福祉総務課、危機管理室

内容要旨；

#### **1 福祉避難所設置運営マニュアルについて**

第3版のマニュアルの変更箇所の説明

- (1)「第2 平常時における取組」のうち、「3 人材の確保【市】」の項目の中で、4行目「専門職ボランティアについては、市は、府を通じて他の都道府県へ要請を行い、専

門的技能を持った者を確保する。」具体的に確保の方策を載せるように変更した。

- (2) 前回「いのこの里・亥の子谷デイサービスセンター福祉避難所開設訓練」の報告に基づき「福祉避難所避難者台帳」の様式を一部変更し、新たに「健康相談表」の様式を追加した。

## **2 いのこの里の施設長等による熊本地震の救援活動報告について**

- (1) 熊本市内の2施設の特別養護老人ホームに支援活動を行った。
- ・救援物資の搬送（水、食料、使い捨ての皿、サランラップ、ウェットティッシュ、紙おむつ等）、
  - ・炊き出し活動
- (2) 全国各地の施設が支援活動を行っていた。
- (3) 福祉避難所に一般の避難者が入っているところがあった。これは課題であると認識。
- (4) 被災地の施設の職員が疲弊してきており、人的支援が必要と実感した。
- 折しも数日前、厚生労働省から大阪府、大阪府社会福祉協議会を通じて、各施設に対して職員派遣の依頼があった。
- しかしながら、どこの施設も職員に余裕がなく、ぎりぎりの配置であることから、2日程度の派遣なら良いが、1週間も職員を派遣したら、施設の運営に支障を来す。よって、職員派遣には協力できないと考えているとの発言あり。東日本大震災でもこの依頼は機能しなかった経緯があり。

## **3 調整会議のポイント**

- (1) 本市が被災した時には、他市町村・施設からの支援がスムーズに受けられるように、遠方の市町村や遠方の施設とのネットワークを築いておくことが必要。
- 普段からのネットワークが重要。(Give & Take)
- 近隣の市町村や近隣の施設では、その市町村や施設も被災している可能性が高い。
- (2) 吹田市は、フレンドシップ協定を遠方の市町村と結んでいるが、規模が小さい市町村ばかりなので支援が機能しないのではないかと懸念がある。
- (3) 被災者のニーズは日々変化する。施設間、自治体間の情報ネットワークが必要。
- ノロウィルスが蔓延した場合など、衛生状態を保つ必要があり、人員不足の中では困難。
- (4) 先日、就職フェアを開催したが、求人数をはるかに下回る応募者しか来なかった。
- 介護従事者の人材不足は深刻である。
- (5) 福祉避難所であるにもかかわらず、今回の熊本地震では一般の人が避難してきている。一般の避難者に体育館に行くよう指示すべきであろうが、地域貢献を義務付けられている社福法人にとって、受入を拒否するのは難しい。
- 特養等入所施設の福祉避難所は、現入所者の介護を図りつつ、別枠での支援である。マンパワー依存であり、レベルの問題が生じる。

- (6) 4/11 開催の都市環境防災対策特別委員会において、別紙提言がなされた。  
本市独自の医療・福祉専門のボランティアネットワークの構築についての提言は、府社協を通じて近隣他府県と連携すべきであり、吹田市以外での震災時には近隣他府県を支援する側として、このネットワークは有効であると思う。
- (7) 福祉避難室については、地域の方々が関わりを持っていただけることが期待できる。福祉避難所の在り方検討と同時進行で検討していくべきである。
- (8) 今回の熊本地震は直下型地震であり、余震が多く、想定外のことばかりでインフラの整備が追い付かず、段ボールベッドの導入も難しかったのではないかと。(危機管理室)
- (9) 今後の会議については、スピード感を持って進めていくという観点から、人数を絞った部会のようなものを立ち上げ、そこでの議論を全体会でお示しをし、検討していくことを確認。人選については事務局に一任となった。  
なお、特養メンバーだけではなく、施設形態に沿った人選をとるという意見があった。